海外活動報告書

医学科 5年 W.Y (Female)

<目的>

私は以前から悪性腫瘍の研究・診療に興味があり、それらに関する課外活動に力を入れてきたが、この度世界にも視野を広げ、米国有数のがん研究施設・医療機関であるテキサス大学 MD アンダーソンがんセンターを見学し、米国でのがん診療から研究までのプロセスを学ぶことを目的とした。

<内容>

① 医療施設見学

今回はじめて米国の病院を訪れ、まず驚いたのは、病院の敷地の広さと、建物の数、高さである。見学先の医療施設は、いくつもの棟に分かれており、各棟は渡り廊下でつながっていたが、各フロアを行き来するのはかなりの距離になるため、10人ほど乗れるカートが渡り廊下を往復しているのが印象的だった。

各棟にはだいたいカフェテリアがあり、内部に色々なお店が入っているが、大抵、サラダバーがあった。サラダを入れるパックのサイズを選び、様々な種類から好きな野菜を選び、スタッフに盛り付けてもらう。タンパク質摂取のために、チキンや豆腐を追加することもできる。野菜の種類はとても豊富で、私にはそれだけで十分な食事になった。野菜を取る習慣を積極的につくるのが、この施設では進められているようだった。

病院内の廊下は絨毯が敷かれ、そこが病院であることを感じさせない雰囲気であった。医師たちが集まる医局も、絨毯が敷かれたきれいなフロアにあり、病院というよりはオフィスといった感じであった。

施設の規模には圧倒されたが、病院という、ある種特殊な環境であるからか、意外にも、文化的な面での日米の違いはあまり感じなかった。

② 腫瘍内科・造血幹細胞移植科の外来見学

米国での外来は、日本のそれとはまったく仕組みが異なっている。まず、各医師用の控室があり、そこに薬剤師や看護師などのスタッフが集まり、担当する患者さんについてディスカッションした後、患者さんが待っている診察室へ向かう。診察中は、カルテを書かず、患者さんとの会話や身体診察などを中心に行う。診察が終わると、皆で控室に戻り、カルテを記録するための音声の入力をしたり、薬の処方をしたりする。ここでは、チーム医療が徹底されていた。ディスカッションだけでなく、診察も

チームで行う。薬に関する質問などは、医師ではなく、チームの一員である薬剤師が答える場面もあった。また、症例カンファレンスを見学することもでき、ここでも、職種を問わず、とても活発な議論が行われていた。

③ 移植病棟の回診見学

回診も、まさにチーム医療が実践されていた。回診チームには、それぞれの職種から一人ずつ参加するため、参加医師も一人である。回診の日は、すでに早朝に **Advanced Practice Nurse (APN)** が各患者さんの状態を把握しており、その報告に基づいて、医師がチェックし、病室を訪問する。病室では、問診や身体診察を行う。一人の患者さんが終わると、一旦詰所に戻り、次の患者さんの状態についてチェックし、病室に向かうという流れだった。

④ 基礎研究室の見学、研究室ミーティングへの参加

私は大学の基礎研究室での実験にもともと興味があり、海外の研究室を見学してみたいと思っていたが、今回その機会を得ることができた。実験室は、病院の外来などを行っている建物の中にあった。日本と同じように、いくつもの研究室が同じフロア内に独立して存在していたが、実験室は共同で使っているようだった。日本人研究者の方数人にお話を聞くことができたが、やはり、米国では、英語によるコミュニケーションが重要であることを痛感した。研究室ミーティングでは、学会等で発表する原稿について、評価や議論が行われていて面白かった。

⑤ **Breast Cancer Clinical Research Fall Retreat** への参加

この会議は、乳がん治療における「**Hortobagyi** のアルゴリズム」で知られる **Hortobagyi** 先生をはじめとする先生方による、研究の方針について話し合ったり、考察したりする場であり、各先生方が各々のテーマを発表し、それに関して皆で議論するという形式だった。ここでも、それぞれが休む間もなく意見し、とても活発な意見の交流が行われていてとても興味深かった。

<成果>

医師として日本の医療現場で働く前に、一度海外、特に米国の医療現場を自分の目で見てみたいと思い、今回の渡米に至ったのであるが、実際、非常に有意義な5日間となった。まず、その医療施設の規模に驚かされたが、チーム医療が徹底されており、色々な立場のスタッフたちが、どこでも非常に活発な議論をしていたのが印象的であった。主張することの大切さ、難しさを学んだように思う。

とはいえ、普段から医療現場に慣れ親しんでいることもあり、それが海外の医療現場であらうと、症状を抱えて困っている患者さんと、それを共に解決しようとする医療スタッ

フが存在する状況に変わりはなく、米国の医療風景にもすんなり馴染めたように思う。

見学をしていると、どのスタッフも快く質問に答えてくださったのが印象的だった。むしろ、何か質問はないか、とことあるごとに訊かれるほどだったので、常に目的意識を持って見学に臨むことが自分にとっても勉強になるのだと感じた。教育に熱心な方が多く、分からないことは遠慮せずに質問することができ、大変勉強になった。

また、診療の場と同時に、基礎医学、臨床研究が行われているところに関して見学できたのも有意義であった。特に Hortobagyi 先生など、大変名高い先生のお話を直接お聞きすることができたのも貴重な経験であった。数日ではあったが、米国での最新の医療の流れを垣間見ることができ、私にとっては、このうえない貴重な見学となった。

<今後の抱負>

今後、医師として働くことになるが、特に最初の間は学ぶことが多いだろうと思う。今回の渡米でもそうであったが、何かを学ぶ際、常に目的意識、探究心をもって物事を見極め、次のステップに進めるように努力したい。今回の経験は、今まで日本の医療しか知らなかった私にとっては、見慣れないことも多く、戸惑いや驚きもあったが、同時に、自分を見直し、視野を広げる良い機会となった。今後、どのような場所・立場にしようとも、狭い視野にとらわれることなく、自分にできることを行い、少しずつでも医療に貢献できたら嬉しいと思う。

海外活動のスケジュール一覧表

<1日目>

午前：腫瘍外来の見学

午後：腫瘍外来の見学

<2日目>

午前：腫瘍外来の見学

午後：腫瘍外来の見学

<3日目>

午前：造血幹細胞移植外来の見学

午後：研究室の見学・日本人研究者との面談

<4日目>

午前：造血幹細胞移植科の症例カンファレンス見学、外来見学

午後：研究室のミーティング見学

<5日目>

午前：造血幹細胞移植科の病棟回診見学

午後：Breast Cancer Clinical Research Fall Retreat に出席